

カメラカバーの有用性 故障率からの検討 第2報

倉敷成人病センター 臨床工学室

山下 由美子

【目的】 当院は、婦人科を中心とし年間 1900 件以上の内視鏡外科手術を行っている。

2014年の日本内視鏡外科学会にて洗浄・滅菌した場合とカメラカバーで運用した場合との故障率について検討し報告した。

今回、更に4年が経過したところでの故障率の比較について再度、検証したので報告する。

【方法】 当院で運用しているカメラヘッドの修理実績の比較と洗浄・滅菌している他施設の修理実績の評価を行った。又、故障内容からの評価も同時に行った。

【結果】 カメラカバーを使用している当院の故障率は、57%であり、洗浄・滅菌している他施設では、平均 79.3%であった。

【まとめ】 カメラカバーでの運用は、7年間の長期で検証しても故障率は洗浄・滅菌に比べ低かった。カメラカバーでの運用は手術中に光学視管を交換することができないというデメリットはあるものの、故障率からみてもカメラヘッドにやさしい方法と考えられる。

又、症例が一部限定されるが、初期投資額と故障金額からみても、経営的にもやさしいと考える。